

## 第1回

あび中

# 社会科通信

2020/4/21

### はじめに

社会科をもっと深く・楽しく・充実したい！そんな思いでつくる、この社会科通信。不定期発信ではございますが、たくさんの情報をつめこんで、皆様にお届けします。少しでも多くの人に読んでいただけるよう、内容も充実させたいと思っております。そこで、この社会科通信を作成するにあたり、保護者の皆様へご理解ご協力いただきたいことがございます。この通信では、「我孫子中学校の社会科学習で子どもたちがどのような取り組みをしているのか」また、「授業中の子どもの様子」などを発信することがあります。そのため、授業の風景や子どもたちの発表資料・ノートなどを、画像資料として掲載する予定です。もし、気になることなどございましたら、社会科教科担当までご連絡くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



休校が長引いていますが、あび中生のみなさんはどのように過ごしていますか？ もちろん勉強もはかどっているとは思いますが、合間に「あの」大人気の鬼退治の漫画・アニメにハマっている人も多いのではないのでしょうか。ということで、今回は鬼について調べてみました。

鬼は、古代から「姿が見えず人をはるかに上回る力を持った、災いをもたらす存在」として恐れられてきました。おにという呼び方が定着したのは平安時代で、「姿の見えないもの、この世ならざる（この世にはいない）もの」を意味する“陰（おぬ）”が“鬼（おに）”に変化したという説があります。また、鬼の姿といえば角を生やしてトゲのついた金棒を持ち、トラ柄のパンツをはいているイメージですが、他にも様々な姿の鬼がいます。その時代や土地に住む人々が姿の見えない鬼を自由に想像したため、様々な姿かたちで残っているのです。

日本各地の様々な鬼の一部を紹介します。どのような鬼なのか、調べてみてくださいね。

① 秋田のなまはげ

② 京都の酒吞童子

③ 沖縄のムーチー

## 東大寺の大仏から考える

社会科の学習は「資料からどれだけのことを読み取れるのか」、「さまざまな立場から考えることができるのか」、「自分の言葉で書くことができるか」、「実生活と学習内容を結びつけることができるか」などが大切です。歴史は過去に起こった出来事ですが、その時代に生きた人たちがそれぞれの場面でさまざまな決断をしたくり返します。なぜ、そのような決断をしたのか、その決断がどのような影響を与えたのか、じっくりと考えてみましょう。

この写真は「東大寺の大仏」です。この写真から読み取れることは何でしょうか？

「大きい」と読み取ったところからさらに考えてみましょう。

平安時代の『口遊（くちずさみ）』という子ども用の教科書に「雲太・和ニ・京三」という言葉がでてきます。当時の有名な大きな建物で、和ニは東大寺の大仏殿です。今の私たちが見ても大きいと思う大仏、奈良時代の人びつくりしたことでしょ



う。これだけ大きな大仏をつくるためには、たくさんお金がかかるなあ、たくさんの方が働いたんだろうなあと想像することができます。大仏をつくるための材料をたくさん集める必要もありそうです。お金と労働者などを集めるには、強いリーダーが必要です。「租・調・庸・運脚」などの租税制度や天皇を中心とした中央集権国家の影響があったことがわかります。

しかし、お金や人や材料を集められるからという理由だけでは、14m98cmもある大きな大仏をつくることはできません。大仏は必要だという強い思いが必要です。当時、震災や病気の流行、食料不足などでみんなが困っていました。なんと当時の人口の25%~35%の人が亡くなったそうです。また反乱もおきてしまいました。この状態を救うことができるのは仏教しかない、しかも宇宙で一番の大仏に守ってもらおうと聖武天皇は考えたのです。ただ実際につくってみるとかなり大変な作業で、実際に作業する人たちのやる気がなくなっていきます。そこで、池をつくったり橋をかけたりしながら民衆に仏教を伝えていた行基という僧侶を大仏をつくるリーダーにして作業をすすめることにしました。

聖武天皇は不安な社会を何とかしようと考えて大仏をつくることを決断しました。あなただったらどうしますか？大仏の写真から読み取ったり考えたりできることはたくさんありましたね。教科書や資料集などの資料をじっくりと観察して、たくさんのかんがえてみましょう。